

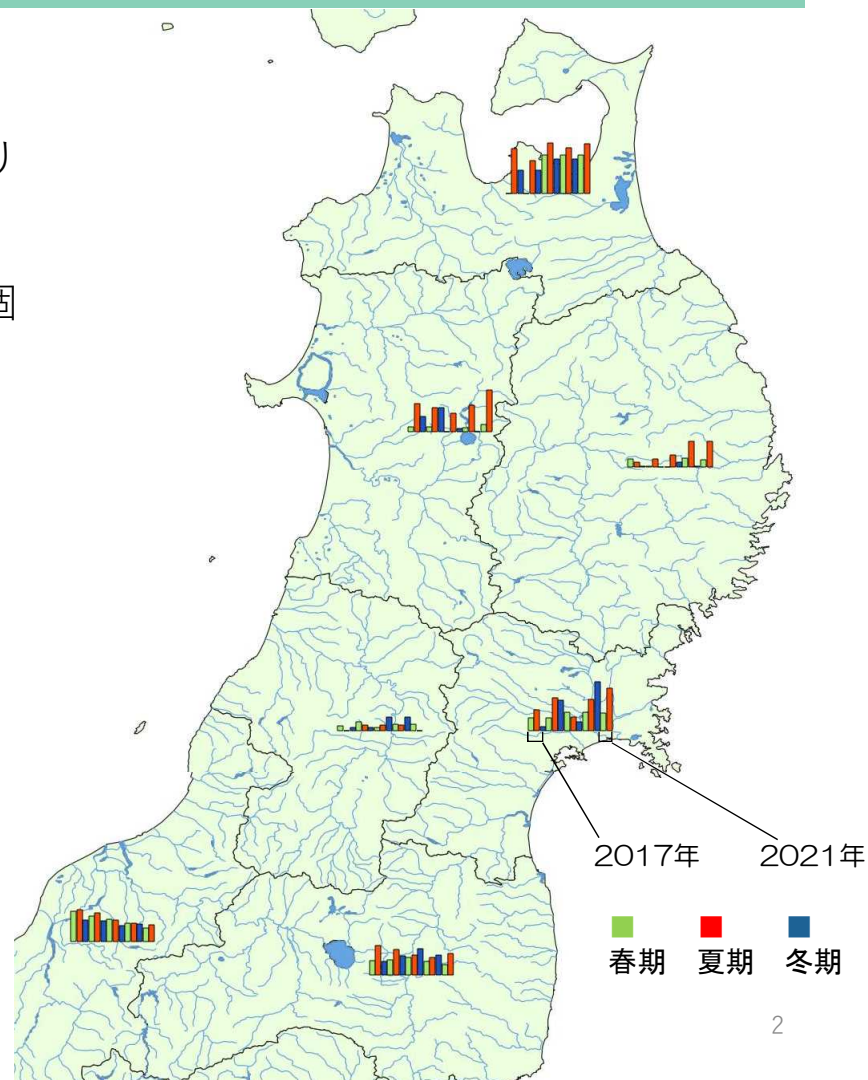
地方ブロックごとの 現状と今後の取組の方向性 (案)

特定非営利活動法人バードリサーチ

東北カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【現状】

- 個体数調査は、実施される県が増えてきており体制は整いつつある。
 - まだデータの蓄積が不十分なため、広域的な個体数の推移を捉えることはできない。
 - 現状のデータからは、
 - 北部は夏期に個体数が多く冬期は減少。
 - 夏期の個体数が2020年から増加？
 - 営巣数は、他の広域協議会に比べ半数程度だが、少なくはない。
 - 北海道にも同程度の営巣が確認されている。
 - 秋に日本海側を南下するカワウの群れが確認されている。
- 以上のことが把握できている。



東北カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【取組の方向性(案)】

<調査の充実>

- 夏に北海道から移入しているカワウがいる可能性や、冬に関東以西に移出している可能性を視野に入れた上で、冬期の低温や降雪などの気候条件がカワウに与えている影響を把握するために個体数の季節変動を正確に捉えられるよう調査の充実を図る。
- 被害が集中する場所や時期など、被害実態の把握と生息状況との関係の分析をする。

<考えられる対策1> 自然減を後押し、母数を減らしておく

- 厳しい冬の間には防除対策や捕獲を実施
もしくは、厳しい冬の後の春の繁殖を抑制

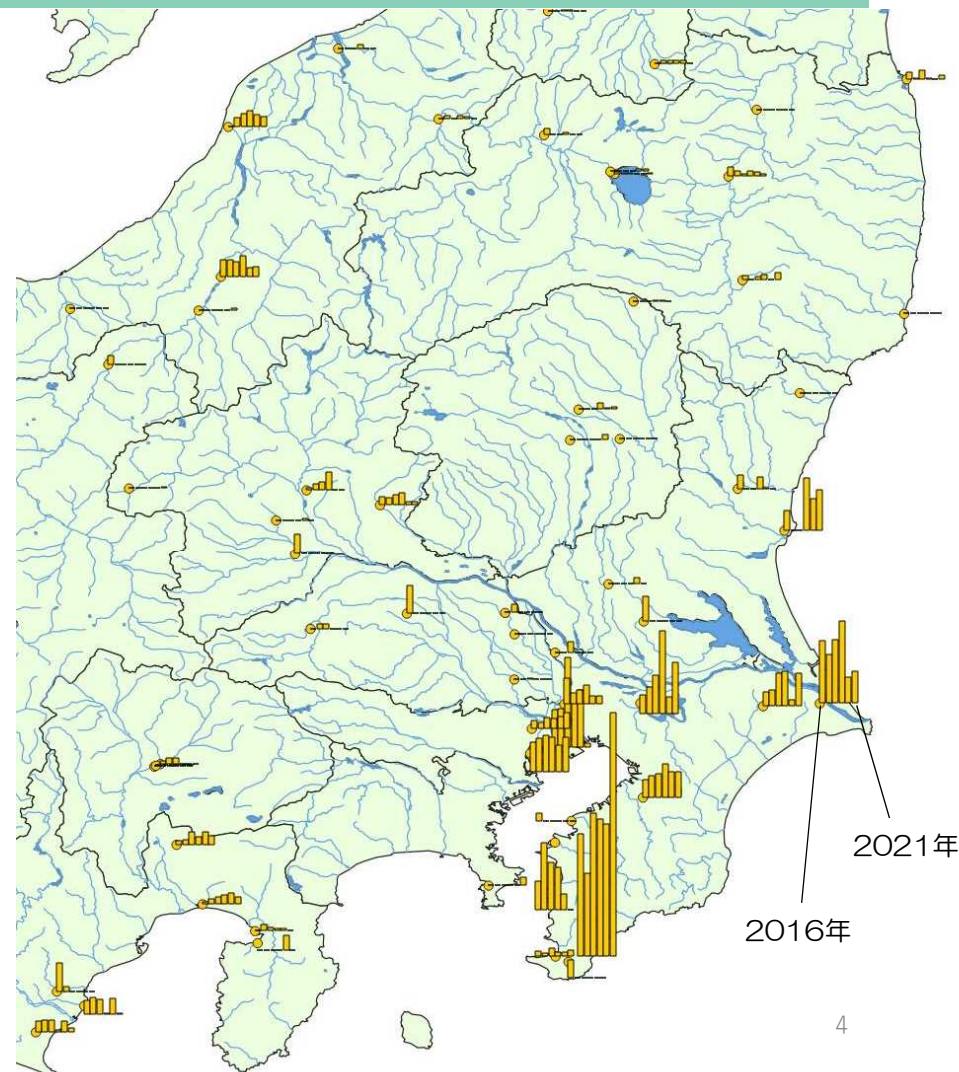
<考えられる対策2> 個体数増が懸念される時期に取組を強化

- 暖冬の後の春夏の対策の強化

関東カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【現状】

- 個体数と営巣数の調査を実施している県が多いものの、個体数は多いが長らく夏の調査がされていない県があるため、季節的な変動の把握が難しい。
 - 営巣数は、利根川下流部、東京湾で多い。
 - 都市部では銃器による捕獲ができない。
 - 個体数は増加していない。
- ↓
- 要因として、北関東などでの捕獲による相殺や関東以外に移出している可能性が考えられるが、詳細は不明。



関東カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

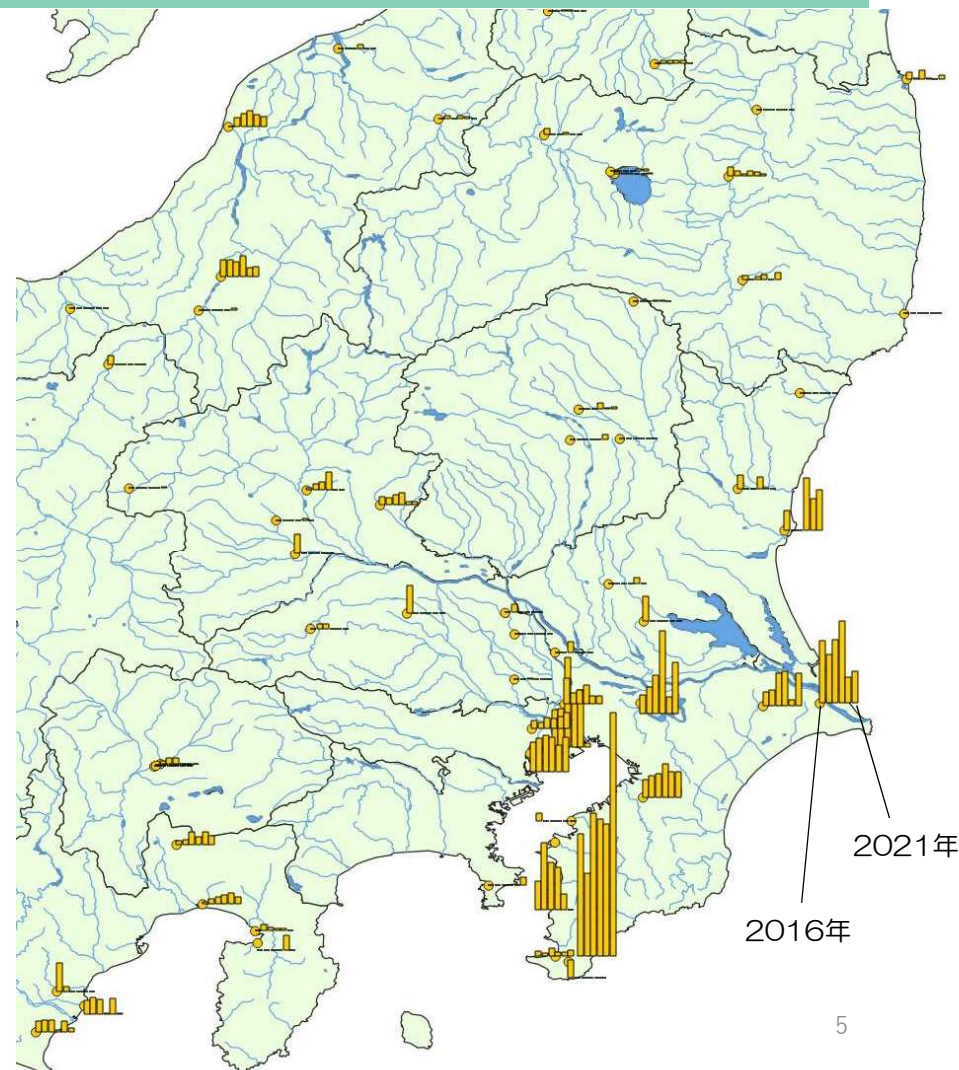
【取組の方向性(案)】

<調査の充実>

- 夏期の調査ができていない県で一度は調査を実施する。

<考えられる対策：繁殖抑制>

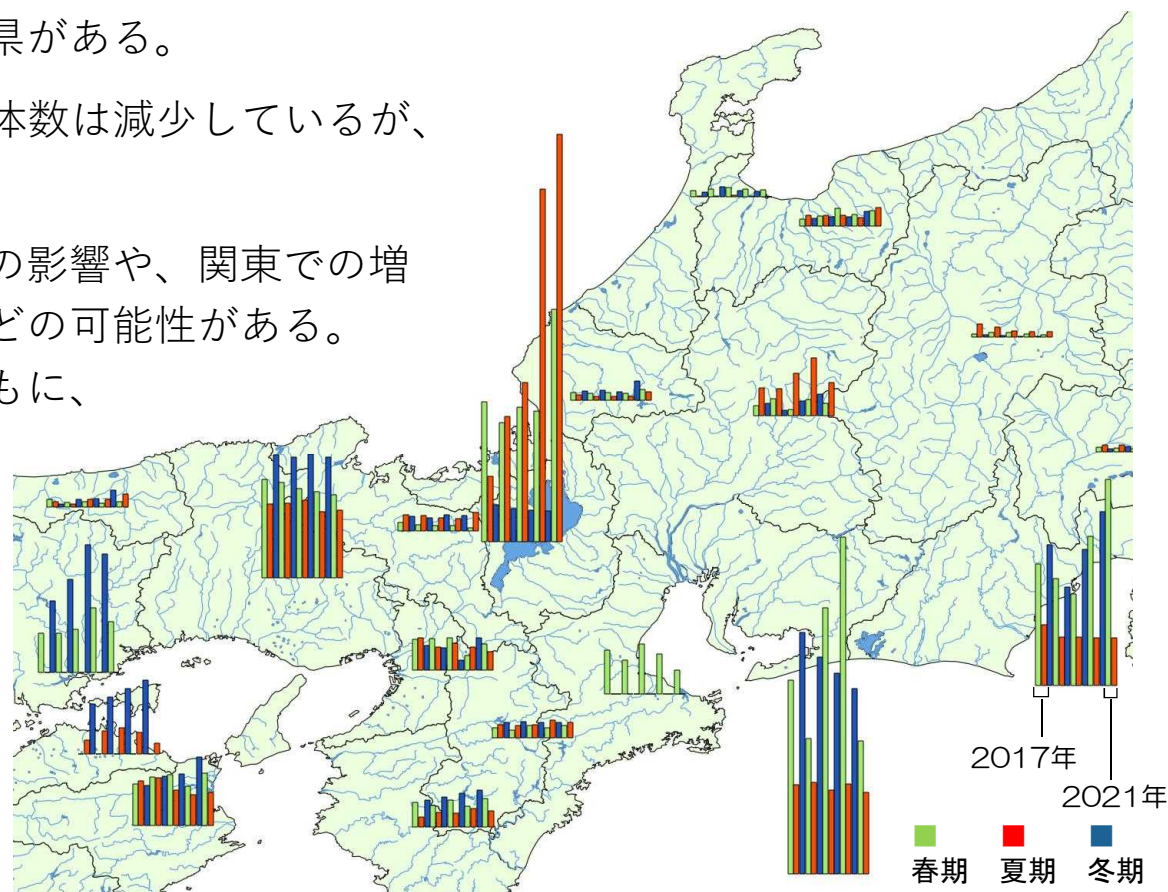
- 利根川下流部、東京湾周辺の営巣数の多いコロニーで繁殖抑制によって、個体数の増加を抑制することを検討。



中部近畿カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【現状】

- 個体数と営巣数の調査を実施している県が多いが、営巣数の調査が実施されていない県がある。
- 個体数調整により長期的には個体数は減少しているが、近年は増加している。
- 個体数増加のきっかけは、暖冬の影響や、関東での増水などによる移入個体の増加などの可能性がある。
ただし、個体数が増加するとともに、繁殖によって毎年加入する個体数が増えていると考えられるため、再度減少に転じさせるためにも対策の強化が必要。



中部近畿カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【取組の方向性(案)】

<調査の充実>

- 連続して同じ時期に調査できていない県では、年3回調査を実施する。
- 営巣数の調査が実施できていない県では、全コロニーで営巣数調査を実施する。

<考えられる対策：個体数調整>

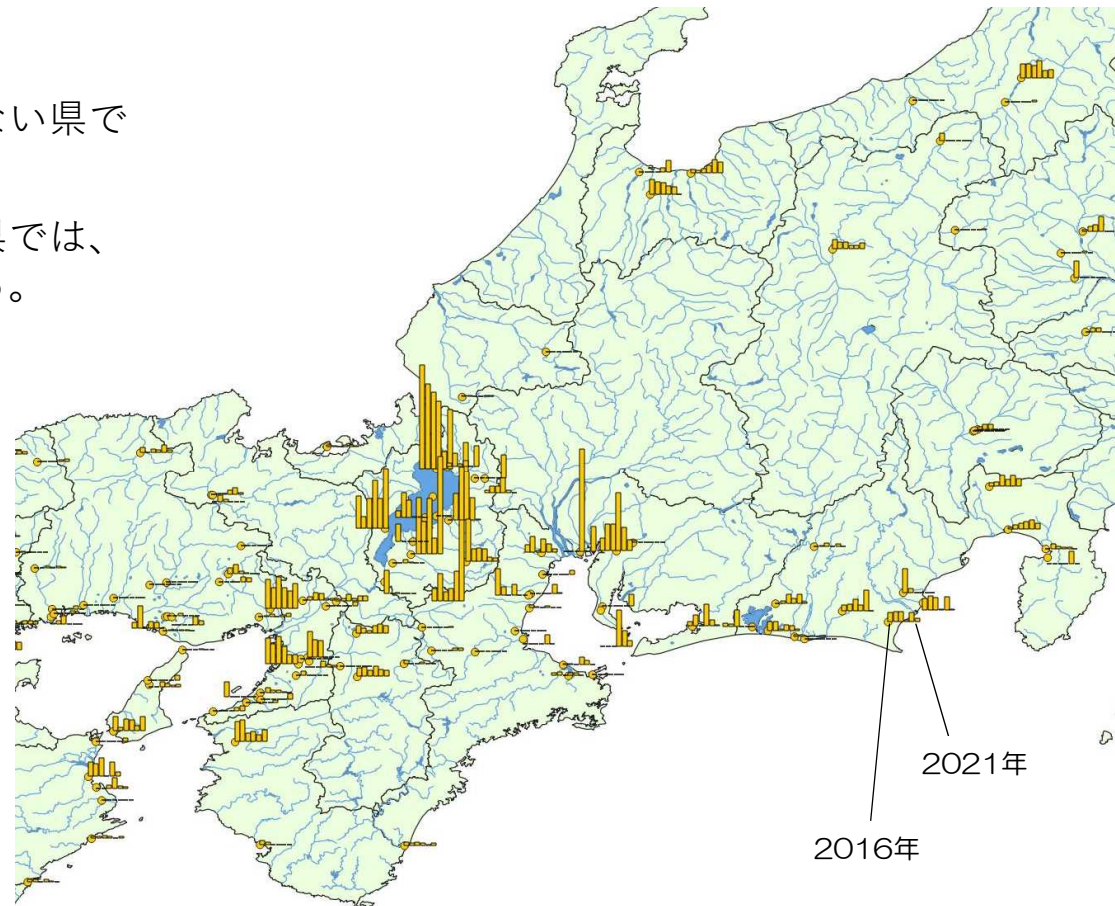
- 個体数調整の再強化の検討。

<考えられる対策：繁殖抑制>

- 伊勢三河湾、大阪湾などで銃器の使用できない営巣数の多いコロニーで繁殖抑制の実施。

↑ ↑ ↑

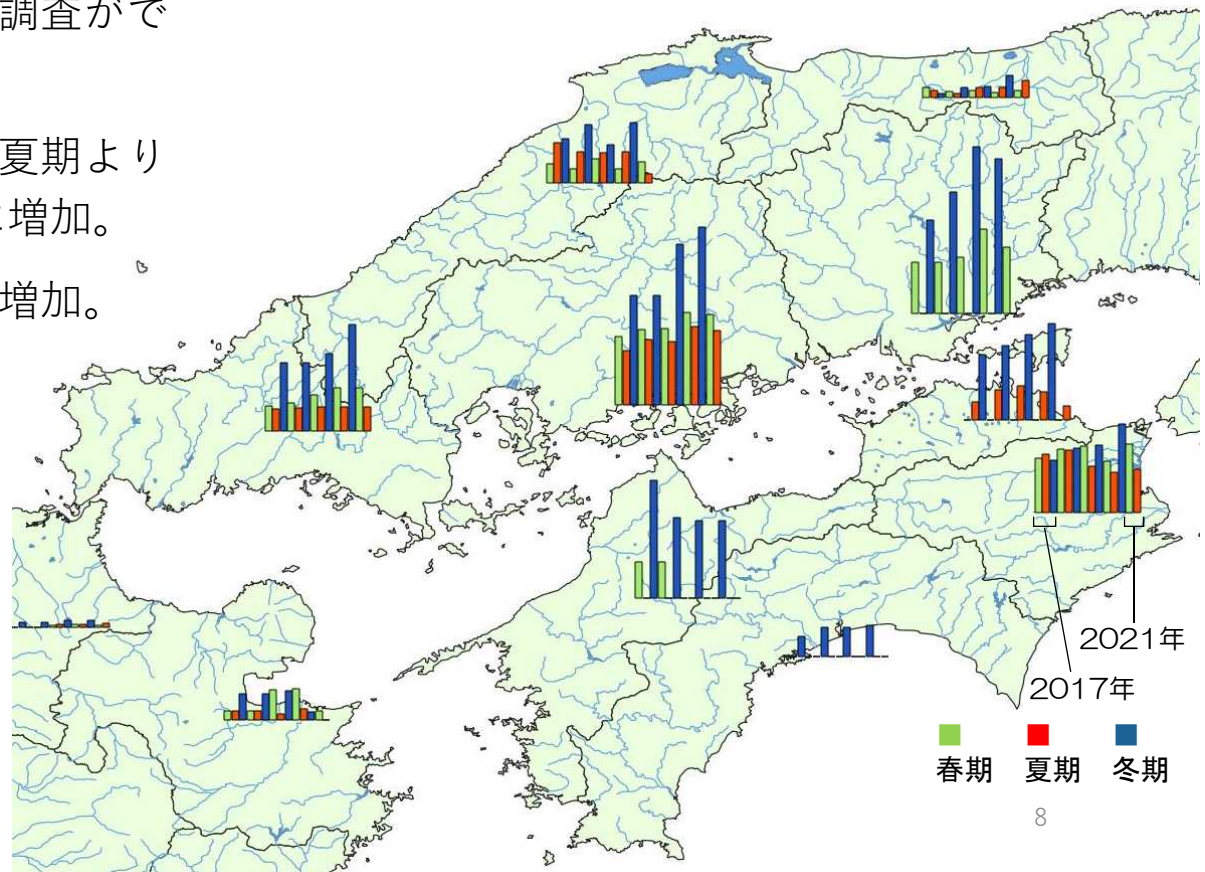
管理計画の作成による下支え



中国四国カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【現状】

- 個体数と営巣数の調査を実施している県は増えているが、春期と夏期の調査ができていない県が多い。
- 中国地方では、冬期の個体数が夏期よりも多く、2018年ごろから急激に増加。
- それに伴って、春期の個体数も増加。
- 過去に、琵琶湖での個体数調整が強化された際、春～夏の個体数やコロニーが増加した経緯がある。



中国四国カワウ広域協議会の 現状と取組の方向性

【取組の方向性(案)】

<調査の充実>

- 春期と夏期の調査ができていない県で調査を実施し、季節的な変動を正しく把握する。

<考えられる対策：越冬個体の定着防止>

- 琵琶湖での春期から夏期にかけての対策が強化された場合、中国四国地方に残り繁殖するようになる個体が増える可能性がある。

↓

- 春期の河川等での防除対策の強化により、居残る個体を抑制する。
- 繁殖抑制や個体数調整の強化。

↑ ↑ ↑

コロニーの分布管理による下支え

